

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること（学部）

（1）教員の養成の目標

本学は、教育の理念を「教養・実力・慈愛のある音楽家の育成」に置き、音楽芸術および音楽教育に関する理論、技能および実践の教授研究により、真に芸術を愛し、「美」の追求に真摯な人材を養成するという目標を掲げている。音楽学部の単科大学ではあるが、創立以来、音楽教育において優秀な人材を育て、数多くの教員を輩出し地域に貢献している。

本学の教員養成における目標は以下のとおりである。

- 音楽教育に関する専門的知識と音楽の技術について、確かな実力を持つ教員の養成につとめる
- 高い倫理観と人権意識を基盤とした、質の高い指導力を有する教員の養成につとめる
- 本学の根幹となるキリスト教精神に基づき、慈愛あふれる行動をもって音楽教育を通じて世界の平和に貢献できる教員の養成につとめる

（2）当該目標を達成するための計画に関すること

音楽教育に関する理論と実践を教育現場において応用できる、実力ある教員養成を旨とし、学科、教職関連教職員が連携して複合的な支援体制を整えている。特に、音楽に関する専門的知識と技術に基づく授業力、指導力、幼児・児童・生徒理解、コミュニケーション能力さらには地域との関係構築能力等、現況で要求されている様々な能力と、豊かな人間性を備えた教員の養成を目指すものである。その実現のために教職課程では、学年に応じて学修段階を定め教職科目を系統的に配置している。各学修段階における計画の概要は以下のとおりである。

□第1学年

人格的成長を目指して教養を高めるとともに、教職に就くために必要な様々な素養を培う。また音楽の教科に関しての知識の獲得、技術の向上に向けた専門的な学修を進めるとともに、幼稚園教員免許取得希望者は専門分野における基礎学習の取り組みをスタートさせ、中高教員免許取得希望者については、後期に教職に対する自己の適性を見極めるために学校ボランティア実習を含む科目を配置する。

□第2学年

幼稚園教諭免許課程においては、専門的知識を深めつつ演習的要素を徐々に取り入れて3、4年次の幼稚園実習への準備に資するよう学修を進める。中高教員免許取得を目指す課程では教職に関する科目、主に中等科音楽科教育を中心とした教職課程の専門教育が始まり、教育現場でのインターンシップ、ボランティア活動の履修を通じて子ども理解を深めながら、各自が音楽への研鑽を重ねて音楽科教員としての資質と能力を高める。

□第3学年

幼稚園教諭免許課程においては保育者、教育者として指導力を高めるためのより実践的な講義や実際の教育実習（幼）Ⅰを通して、必要な資質と能力について自己分析し、各自の課題を明らかにして学修を進める。中高教員免許取得を目指す課程においては、「教育実習事前指導」を開始し、「介護等体験」を行う。生徒指導や教科指導の具体的な技術を高めるため模擬的な練習を含む科目を十分に配置する。教科に関する科目については、より専門性の高い内容で学修を進める。また、人間関係構築能力を高めるアクティブラーニングや楽器クリニック講座など、実践的で多角的な学修により4年次の教育実習への準備に資する。

□第4学年

教職課程全体の取り組みとして実習直前まで「教育実習事前指導」を継続実施し、学生一人一人の実習準備を丁寧にサポートする。幼稚園教諭免許課程においては教育実習（幼）Ⅱ、中高免許課程においては、教育実習後は「教育実習事後指導」におけるディスカッション、後期科目「教育実践演習」の受講等を通して、それぞれの反省を生かしたさらなるスキルアップを図り、実習経験からの学びを確かなものにする取り組みを行う。また、これまでの教職課程の学修プロセスについて履修カルテ等を用いて振り返り、幼稚園、中高、それぞれの教員としての必要な資質と能力の形成を自己確認させるとともに、社会において個々の学修成果を十分発揮するよう指導を展開する。

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること（修士課程）

（1）教員の養成の目標

本学は、教育の理念を「教養・実力・慈愛のある音楽家の育成」に置き、音楽芸術および音楽教育に関する理論、技能および実践の教授研究により、真に芸術を愛し、「美」の追求に真摯な人材を養成するという目標を掲げている。中四国においては数少ない音楽を専門とする大学院設置大学として、大学院でのより高度で深い教育を行うことにより、広い視野と知見を備えるための特殊研究等の学びを通して、専門的な知識・技術や芸術表現における豊かな経験値と、教育の場で地域の芸術とりわけ音楽文化の進展に寄与する力を身につけた人材を育てることを目的としている。

（2）当該目標を達成するための計画に関すること

自立した優秀な作曲家・演奏家・指揮者・研究者そして教育者として活動をしていくために、修士課程に所定の期間在学する中で、毎週音楽創作・指揮・音楽学・音楽教育学・宗教音楽学・宗教声楽・声楽・器楽の各個人指導を受けた上で、特殊研究及び関連学科目の必要単位を履修し、最後に実施される修了作品演奏会又は修了リサイタル又は修士論文発表会において、各専門分野の高度で深遠な学識や技術を習得する。

教員養成の観点からは、修士課程在学中の個々の専門研究ならびに関連学科目における学びを通して培った自立した研究または創作の能力を、教育現場における教授能力に活用し、豊かな芸術（音楽）教育を遂行できる力を備えた人材を育成する。